

第6回板橋区教育ビジョン検討委員会 要旨

会議名	第6回板橋区教育ビジョン2035検討委員会
開催日時	令和7年12月26日(金)午前10時30分から午前11時40分まで
開催場所	区役所北館11階第二委員会室
出席者	<p>【委員】 天笠委員長、笹井副委員長、児美川委員、倉斗委員、三枝委員、大塚委員、安彦委員、豊田委員、本間委員、木村委員、長沼委員、林委員、金子委員</p> <p>【事務局】 教育総務課長、学務課長、指導室長、新しい学校づくり課長、学校配置調整担当課長、教育施設担当課長、多様な学び推進担当課長、生涯学習課長、地域教育力推進課長、教育支援センター所長、中央図書館長、史跡公園担当課長</p>
欠席者	【委員】高田委員
会議公開	公開
傍聴者数	1名 ※会議開始時0名であったが、途中から傍聴1名あり
次第	<p>1 「板橋区教育ビジョン2035」の名称変更について</p> <p>2 「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035・アクションプラン2028-」(案)について</p>
配布資料	<p>資料1:「板橋区教育ビジョン2035」の名称変更について</p> <p>資料2:MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035・アクションプラン2028- (案)</p> <p>資料3:広報用資料「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035」</p> <p>資料4:前回からの主な変更点</p> <p>参考資料1:パブリックコメントについて</p> <p>参考資料2:議会報告における意見・質疑</p>
会議概要	<p>報告1「板橋区教育ビジョン2035」の名称変更について 事務局より資料説明を行った。</p> <p>【主な意見】 なし</p> <p>報告2「MIRAI SCHOOL いたばし -教育ビジョン2035・アクションプラン2028-」(案)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事務局より資料説明を行った。 <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園・幼稚園に絵本を配布し読書習慣を育めるとよい。 ・ 「つなぐ、つながる、つなげる」について、核家族化が進む中、世代間交流を促進し、地域とのつながりを強化すべきである。 ・ 療養目的校の天津わかしお学校は、多様性に寄り添えており、読書率が高い。予算拡充や不登校の子どもの受入を検討する価値がある。 ・ 2年間の議論が形になり感無量である。検討委員会が終わった後も、何か委員会があってもよい。 ・ 不登校の子どものことが従前のビジョンより取り入れられ、指標についても相談体制への転換が図られたことは評価できる。一方、不登校における他自治体と板橋区間の連携不足は依然課題であり、情報共有の促進に注目している。 ・ 計画を読んで、これまでの取組が成果を上げた実感すると同時に、未踏の領域もまだまだあることが多く残っていると嬉しい気持ちになった。 ・ 学校だけが教育の場でないことを明示し、不登校児童や多様な子どもたちが安心して成長できる環境を多数提示した点は、委員会で議論されたウェルビーイングとつながる。 ・ 専門用語を排し、わかりやすいコラムを添えて構成されたビジョンは教員にとっても読みやすく、共有したいと感じた。

- ・ このビジョンは、総合的な学習の時間の素材、テーマがさまざま散りばめられている。学校で取り入れて計画を立てるといったことはあるか。
→ビジョンでは、イエナプランの記載がある。今まで異年齢集団や、特別活動を中心とした取組を行ってきたが、それが、どういう力を育てるためのものを示しており、参考になっている。
- ・ 2年間の検討で作成されたビジョンが分かりやすくまとめられている点を高く評価できる。一方で、資料4の「自己受容・他者貢献・他者信頼」を総称する「心のあり方を育てる力」は子どもにはわかりづらく、他の言葉と比べて違和感がある。今後10年間これを使っていくとなると、子どもへの伝達がなかなか難しい。「心のあり方」を指導はするが、「心のあり方」を育てるのは非常に困難な印象である。
- ・ 中学校で、総合的な学習の時間とビジョンの関連は、どのように考え、とらえているか。
→各学校で、「MIRAI SCHOOL」を意識した取組をしている。従来やっているものと新しく示されたものの整合性を図るという作業を今進めている。新たに取り組むことがあれば、何かを減らす必要があるため、各学校が学校評価を通じて、検討している。
- ・ めざす姿について、7つの要素から5つのチカラに変更され、わかりやすく、いい言葉だと感じる。
- ・ 地域で様々な活動をする中で、学校と地域が、今はかなり近づいてきていると実感しているが、その中で、区がめざす未来像を一般の人にいかに伝えていくかが、課題である。
- ・ 「木育」の一環として、区内の老木を切って捨てるだけでなく、図工の時間に教材として活用できると環境教育につながる。
- ・ スポーツに取り組んでいる子どもの支援が少ない。全国大会に出場するなど頑張っている子どもの支援があるとよい。
- ・ 板橋区全体の子どもを育てるという視点から、私立校との情報交換や繋がりがもう少し持てるとよい。
- ・ 教育大綱や基本構想などの他計画との整合性を図り、内容にも反映されていてとても良い。
- ・ 未来志向の意思をわかりやすく整理することは、非常に覚悟が必要で責任も伴うことである。自治体によって、その覚悟の決め方の温度差が出ていると感じる中、先進的なところで覚悟を決めている姿勢がみえ、非常に刺激的な内容であり、板橋区は誇りに思っている。教員や教育委員会が覚悟を決めるだけでなく、世の中、特に保護者がどう頭をシフトして同じ意識を共有できるかが非常に重要。資料3はわかりやすくコンパクトにまとめられており、非常に価値があり、高く評価する。
- ・ 資料3の方向性4で、着実な教育行政の推進で情報発信にしっかり触れている点が高く、資料3そのものが情報発信の取組の一つといえる。重要なのは、継続的にわかりやすく伝えていくことである。
- ・ 実施後の点検・評価を改善に結び付ける仕組みが極めて重要である。数字が示す結果は当然「できた」「できなかった」で問われる。部署ごとの反省で終わらせず、うまくいかなかった原因を組織全体で検討し、次の施策に活かす場づくりが必要であり、体制構築についても検討する必要がある。
- ・ 計画を策定しても知っているのが教育関係者に限られがちである。また、行政側は情報過多に走りやすい。紙面には板橋の大きな方向性のみを大胆に示し、詳細はQRコードでリンクさせる方法も検討してみてもどうか。
- ・ 資料2はコラムが付いていて魅力的であるが、目次に反映されておらず、本文を読まなければコラムにたどり着かない点があったくない。コラムを目次に示すことで、閲覧者は直接アクセスできる。目次の構造を見直し、コラムを可視化することを検討してはどうか。

- ・ 保護者にどのように伝えるかが、重要。
- ・ 今回、すてきなチャームなビジョンを作っていただいた。内容がよいものであっても、なかなか人に伝わらないケースが他自治体も含め少なくないが、このビジョンは、突出して、魅力的なものになっている。計画は、理屈っぽくつくってしまいがちであるが、この計画は、納得感を生むものになってよい。
- ・ 「教育は、人が幸せに生きるためにある」、「教育を通して、学ぶ喜び、成長する喜び、他者と繋がる喜びを感じられる」というのは、教育の原点である。世の中では、成果を第一に考えた学びが多い。しかしながら、本来、学びは楽しく、嬉しいもので、学びを通して、過去の自分が変わっていくことを実感することも嬉しく、他の人と一緒に学び合ったり関わり合ったりすることが嬉しいということが、ある種の学ぶプロセスだといえる。そこに改めて着目して、計画のベースにしているのは、大変評価できる。
- ・ めざす姿を横文字で表現するケースは非常に珍しく、ややもすると、表面的なことだけになってしまう懸念があるが、今の時代に求められている、大事な価値規範を、横文字にされていて、安心した。
- ・ 資料3の行動指針が非常によく、今の学校教育に課題としてあることを、わかりやすく提示している。
- ・ 教育上の価値規範は未来志向であるため、綺麗ごとになりがちである。それをどのように実にしていくかは非常に大事である。板橋区は、点検・評価とアクションプランの改訂に取り組むとしているが、あわせて、専門家や市民代表の人に外部評価してもらうことを検討いただきたい。ある意味では、先進的でありながら非常に本質的なビジョンになっているので、ぜひ実質化していただきたい
- ・ この計画が、どのように実行され、その成果がどうなのかについては、確かめさせていただきたい。計画を立てることが、1つのゴールというのが一般的なスタイルと思うが、その先をどうフォローしていくのかどうなのかが、課題である。身内だけで、点検・評価をして、お手盛りのような形になることなく、より公のもの、共有のものとしていくかどうかについては、検討いただきたい。
- ・ 区民に、このプランをきちんと伝える、思いを共有することが願うところである。そういう点で、資料3について、もう少し見栄えを含めた、興味を持っていただく工夫を検討いただきたい。技術的なことも含めて、様々な知恵やアイデアを、募っていくというのも、1つだろう。文字が多過ぎるため、文字をイラストに変える、色彩に変える、枠組み自体を動かすなど、ノウハウを持っている方を活用する方法もある。総合的な学習の時間の一環として中高生と一緒に取り組んでみることも考えられる。「SCHOOL」が、板橋区全体の空間をさすものとして打ち出したことが、この計画のコンセプトであり、そのことが、保護者や地域の方に自分たちもこれに関わる一員であることが共有できると違ってくる。資料3をどのように使っていくか、注視したい。
- ・ 教育委員会事務局の役割は、この計画で掲げた「教育は人が幸せに生きるためにある」という理念に基づき、「MIRAI SCHOOL いたばし」の実現に向けて、着実に教育政策を推進していくことである。委員の皆様の声をしっかり受けとめて、しっかりやっていきたい。1日遅れのクリスマスプレゼントをいただいたので、しっかりと、柔軟な靴下で受けとめ、何年後かにきちんとプレゼントを使ったよ、といえるように、しっかりと取り組んでいくのが我々の役割である。時代の変化にも柔軟に対応して、靴下も柔軟に広げたり、縮めさせたりしながら、このプレゼントをどのように活用していくかを、日々の施策の中で検討しながら進めていきたい。
- ・ 板橋全体を学びのキャンパスへと広げるということは、教育委員会だけではなく、教育に関わるすべての方々にご理解とご協力をいただくことが不可欠である。いかにして区民に伝えていくのかというのも我々の使命である。わかりやすく伝え、様々な方にご協力をさせていただける、そういう形でこのビジョンを使っていきたい。

	3 事務局より事務連絡 事務局より、今後のスケジュールを連絡。
所 管 課	教育委員会事務局教育総務課計画係